

SSH 通信

「TSURUOKA SCIENCE CLUSTER」におけるSSH活動の深化による科学技術の発展を担う「人財」の育成

第25号(平成29年10月)

平成29年度SSH生徒研究発表会

8月9日～10日に神戸国際展示場において、平成29年度SSH生徒研究発表会が行われました。国内外から約230校の学校の生徒が集まり、本校からは阿部周平君(3年2組)と上野莉南さん(2年1組)が参加しました。

阿部君は「チョウの幼虫の食性と共生細菌の関係」についてポスター発表をしました。残念ながら賞はいただけませんでしたが、合計6時間30分のポスター発表のほとんどの時間を1人でやり遂げました。そんな中で昆虫を専門とする方々や、同じようなことに興味を持つ参加者から多くのご指摘やアドバイスをいただき、貴重な体験をすることができました。

阿部 周平

今回のSSH生徒研究発表会は科学に対する関心を高める良い機会となりました。発表では自分がしてきた研究に対して質問や意見を交わし、自分の研究に対する考えを深め、改善点や改善方法、新たにやってみたいことを見つけることができました。それに、会場には昆虫が好きな人が多くいて、普段することのない昆虫についての会話を広げることができてとても嬉しく思いました。自分と同じようなことに興味を持っている人と話ができる貴重な機会にもなりました。

また、少しの間でしたが他の人の研究も見てまわることができました。どれもユニークで興味をそそられるものばかりでした。自分と同じ学年の生徒がこんなことをやっているのか、と驚くとともに、とても刺激を受けました。このような素晴らしい機会に恵まれて大変ありがたかったです。



第41回全国高等学校総合文化祭 自然科学部門

8月2日～8月4日、宮城県石巻市にて開催された第41回全国高等学校総合文化祭に科学部3年生4人、2年生6人、1年生2人が参加しました。今年は過去最多3部門(生物部門、物理部門、地学部門)での発表となり、多くの生徒が全国の舞台上で研究成果を披露することができました。3日目は全員で巡検を行い、東北大学工学部の研究室訪問をしてきました。

齋藤 美尚

総文祭では、各都道府県の高校生の発表を聞くことができました。私たちの暮らしの役に立ちそうな発表や小さな疑問を奥深くまで掘り下げている発表、発表に対する質疑応答の仕方などこれからの自分たちの研究や発表の参考になりそうなことをたくさん学ぶことができました。

12月の県大会に向けてこの総文祭で学んだことをうまく活用してがんばっていきたいです。

佐々木 快

総文祭は高校生ながら実際に役立つようなことを発表している高校があり、今後の研究に役立つようなことがありました。特に先輩方の発表はとてもハキハキとしていてすごいと思いました。質問への応答もわかりやすくして聞いていて人が納得できているように感じました。自分たちも背景、実験内容をはっきりさせ、堂々と発表できるようになりたいと思いました。



7月27日に中学三年生を対象に一日体験入学がありました。会場には360名の中学生が集まりました。今回は学校全体の説明の中で鶴南ゼミの発表会の様子を感じてもらうために昨年度2月の全体発表会でステージ発表優秀賞を受賞した成澤崇之君(3年2組)に「心白粒と粒厚の関連性」についてステージ発表をしてもらいました。内容はかなり専門的で難しい部分もありますが来場した中学生は真剣に聞いてくれていました。

成澤 崇之

一日体験入学に参加した沢山の中学生の前で自分の研究について発表をすることは自分にとって非常に貴重な経験になったと感じています。

久しぶりに大勢の前で自分の研究をプレゼンしたので緊張しましたが中学生たちが真剣に聞いている様子が伝わってきてとても嬉しかったです。これから鶴岡南高校に入学して「鶴南ゼミ」で探究活動を行う中学生たちに有意義で面白い研究を行ってほしいという思いを伝えられる発表になったと思います。



平成29年度日本植物学会

9月10日(日)千葉県野田市の東京理科大学・野田キャンパスにて開催された日本植物学会第81回大会高校生ポスター発表部門に、本校3年生の成澤崇之君が参加しました。高校関係者の他に大学関係者、一般の方の発表を目の当たりにして、大変刺激になったようです。

また、本校OBの名古屋大学東山哲也教授にお会いし、ご指導いただきました。東山先生も本校生徒に大変期待していました。

成澤 崇之

植物学会に参加して、大学の教授や高校生と質疑応答することで、どう自分の研究を伝えていけばいいのか、また、これからどのように研究を進めていけばよいかを改めて認識できました。イネの研究発表は私だけで、関心を持って聞きに来てくださった方がいてうれしかったです。これからも研究発表がさらにうまくできるように、努力していきたいと感じました。



日本土壌肥料学会2017年度仙台大会

9月5日(火)宮城県仙台市の東北大学青葉山新キャンパスにて開催された日本土壌肥料学会2017年度仙台大会に科学部の2年佐藤佑真君と2年鶴巻敬史君が参加してきました。

ポスター発表を通じて様々な方と交流することができて、充実したものとなったようです。会場では本校のOBやOGの方にも声をかけてもらえて、本校の卒業生の活躍ぶりの一端を垣間見ることができた機会でもありました。

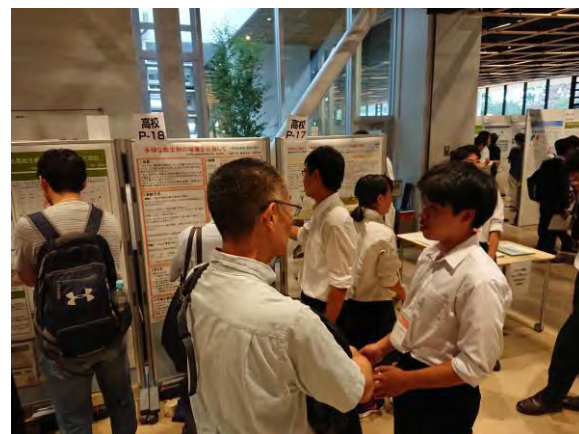
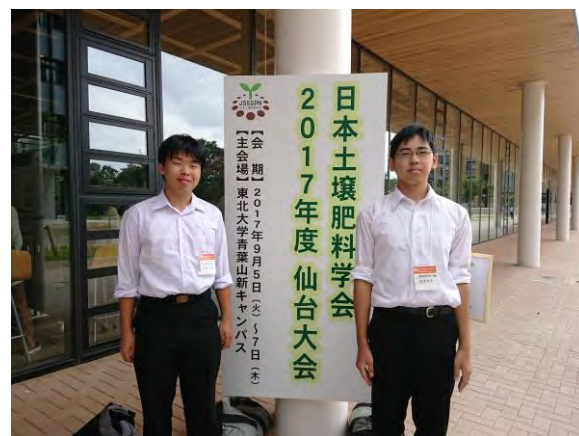
佐藤 佑真

初めての学会で右も左も分からなかったうえ、短期間での準備が大変でした。発表では、学会らしい奥の深い質問や意見を沢山もらうことができました。今後の活動に大いに役立つすばらしい機会であったと思います。

鶴巻 敬史

今回が初めての学会でしたが、いろいろと学んだことが多々ありました。実験でも切羽詰っていて、発表準備も少ない期間でやりましたが、ベストを尽くして発表できたと思います。

発表を聞いてくださった方々からは様々なアドバイスを頂き、これからの研究に活かせるようなものとなりました。これからも今行っている研究に精進していきたいと思っています。



6月22日(木)に、1,3年生を対象とした、庄内の企業による企業説明会を実施しました。地域を支えるという重要な役割があることを理解し、将来、地元に戻って仕事をするを考える機会にしたいという目的から行っている、今回で3年目となる企画です。

今年度は、従来の求人資料に加えて、庄内の企業の魅力や挑戦をわかりやすく伝える「PRシート」も作成していただきました。生徒は10分程度ずつ3社をまわり説明を受けました。庄内にも世界に誇れる企業があることに大きな刺激を受けたようです。

また、全体講演として株式会社めぐるん代表取締役加藤丈晴氏と東北公益文科大学地域経営系平尾清教授による、「地域活性化のために庄内で起業する意義」についてのユニークなお話を伺いました。地域活性化と自らの将来について考えるよい機会となりました。



参加企業一覧

安藤組	ブレンスタッフ 株式会社	(株) 東北ハム
オリエンタルモーター 鶴岡中央事業所	株式会社 庄交コーポレーション	鶴岡市農業協同組合
株式会社 高研 鶴岡工場	株式会社 万国屋	みちのくコンサルタント株式会社
マーレエンジンコンポーネンツジャパン(株)	株式会社 エル・サン	株式会社 コミュニティ新聞社
株式会社 タマツ	庄内医療生活協同組合	東北エプソン株式会社
株式会社 荘内銀行	医療法人社団 みつわ会	ソニーセミコンダクタ マニファクチャリング (株) 山形TEC
Spiber 株式会社	生活協同組合 共立社	鶴岡ガス株式会社

お詫びと訂正

SSH通信第24号p2、東北大学の名称に誤りがありました。正しくは「情報科学研究科」、「工学部電気情報物理工学科」です。ここに訂正し、お詫び申し上げます。